

学び生かし人材育成

水沢工業高生がプログラミング指導

中学生に先端技術

県立水沢工業高校(日當仁)校長は、生徒が学んだ専門技術を生かして地域貢献を行い、中学生に工業への興味・関心を深めてもらう場として、中学校での授業を計画。電気科教諭と3年生7人が6日、衣川の市立衣川中学校(菊地榮壽校長)で3年生38人を対象に出前授業を行った。中学生たちは、先端技術に関わるプログラミングについて学びを深め、将来の選択肢を広げる一助とした。

(松川歩基)



水沢工業高校の生徒が中学生に直接指導した出前授業

地域の将来を担う専門技術を身に付けた人材育成を目指し、初めて開催。同日は、中学校の技術科授業の一環に位置付け実施した。同高校電気科の田頭将敬教諭が講師を務め、高校生たちは中学生のそばについて端末の操作方法や質問などに対応した。

専門用語の解説や、身近に活用されている例などを考えるところからスタート。田頭教諭は「問題解決のため

の手順がアルゴリズム、プログラミングはそれを機械にも理解できるように専用の言語に置き換えてあげる作業のことで、アルゴリズムを考案することが、次のより良い製品開発にもつながっていく」と話した。

理解を深めるための取り組みとして、インターネット上に無料で公開されているプログラミング体験ゲーム「アールゴジック2」を活用。指示の組み合わせで、迷路上のロボットをゴールまで導くゲームで、中学生たちは高校生に助言をもらいながら試行錯誤していた。指導に当たった藤田吟太さん(18)は「どうやったらうまく伝えることができるのか、本当に難しかった。プログラミングはこの先も必ず世界から必要とされる技術。興味を持つきっかけの時間となった。

てくれたら」と期待。授業を受けた菊地未来翔さん(14)は「ゲームを活用して学ぶのは楽しく、貴重な体験だった。

た。これからも二つの機会を大切に、しっかりと学んでいきたい」と話していた。授業の後半は学んだ

ことを生かし、中学生たちが複数人で協力しながらマイコンカーを動かすプログラミングにも挑戦した。